白河高原薪の会　ー　設立の経緯と目的

2011 年、東日本大震災が起き、原発事故が発生した。
結果、放射性物質が樹木に降りかかった。
身近な森からの恵みで冬の暖を取っていた私たちにとって思いもよらぬことが起きた。
その後、林野庁、福島県などから薪取り扱いに関する通達や森林の放射能の情報が次々と入ってくることになった。
しかし、通達に見合う薪用の原木がないばかりか、遠方から入手するため価格が上昇した。
これから薪をどうしよう。
ちょうどその頃、こんな情報を入手した。
伐木後、コナラ萌芽枝に含まれるセシウム濃度が 2013 年から1年で 47%下がったとの報告（後に分かったことですが最初急速に軽減したもののその後は各セシウムの自然減衰率の関係で軽減の速度は落ちることになった。）
また、落葉した樹木に降りかかったため、樹皮にその多くが付着しているのでこれを除くか、落とすことで、燃焼の副産物の灰のセシウム濃度を減少できることを知った。
これらを発起人とまとめ、2015 年 2 月、自分たちで森に入り、広葉樹を皆伐し薪を作ることを決断。
そのことで萌芽更新の力を借りて森林整備した場所だけでも汚染や荒廃からの早期回復を図ることで「近隣の人、次世代の人が安心して森に入り楽しめるよう、併せて私たち薪焚き人もその恩恵をさずかろう」というのが発起の経過と会の目的です。
この年、18 名の会員が賛同し、幸運にも助成金を活用することで活動のための道具類を揃えることができた。
また、近くの森の樹木を所有者から譲り受けて、会の活動がスタートすることになった。